

1年生 今後の手立て

学校生活アンケート

アンケート結果より、児童の自己評価が下がってきていることがわかる。担任からみると児童同士の繋がりが広がり、様々な活動も活発にできるようになってきたが、学習内容や活動内容が難しくなり、求められることも増えてきたため、自分に自信がなくなってきた児童がいると考えられる。また、入学当初よりも、自分やまわりのことを、客観的に見るができるようになってきているとも考えられる。今後の手立てとしては、具体的に、児童の良さを認めたり褒めたりする機会を、増やしていくようにする。

また、朝の会でのスピーチ、帰りの会での「今日のきらきらさん」の発表、グループ学習や集団遊びなどを充実させ、児童同士の繋がりをつくっていくことや、自分の思いを発表したり友達の思いを聞いたりする活動をし、互いのことを知ったり認め合ったりできる場面を多く持つことを、引き続きおこなっていく。

魅力ある学校づくりアンケート

学習においては、理解に時間がかかる子どもたちに対して、授業に意欲的に取り組めるような授業づくりに工夫をしたが、前期に比べ授業内容が難しくなり、意欲的には取り組めても理解が不十分であったり、時間がかかったりする子どももいて、結果的には6月に比べ、授業がよくわかると回答した児童が減ってしまった。

さらに、理解しやすい授業づくりの工夫と理解が不十分だったり時間がかかったりする児童には、個別に指導にあたるなど授業の内容理解に努めたい。また、家庭と連絡をとり、家庭学習で定着をはかるよう声かけをしていきたい。

学校生活においては、6月と同じく楽しく過ごしている児童が多いので、学校生活にも慣れ、友だちの輪も広がっているので、学級遊びなどを取り入れるなどしてさらに友達との関わりを深めていきたい。

暴力を受けたり、意地悪をされたりして、嫌な思いをしたりしている児童が減っているので、友だちの関わりが増え、友だちの気持ちを考えて行動したり、友だちの思いに気づいたりできる子が増えてきたように思う。6月に引き続き、今後も友達の気持ちを考えて行動したり、友だちの思いに気づいたりできるように指導していきまた、起こった問題に対しては、迅速・適切に指導していきたい。

2年生 今後の手立て

学校生活アンケート

アンケート結果より、児童の評価が上がってきている。クラスの友だちとの交流も深まり、楽しく学習にも取り組めてきている。

食教育「すききらいをなくそう」の学習をしたことで、3つの栄養素の大切さが分かり、アンケート「給食は、好き嫌いなく食べている」の項目では、「好き嫌いなく食べようと意識している」と回答する子どもが増えてきている。今後の手立てとしては、自分の健康を考えた食事をとることを意識させながら、少食の子どもたちへの継続した指導を行っていく。

アンケート「うまくいかなことがあっても、最後までがんばろうとしている」の項目では、あてはまらないと回答した子どもが7%いた。ペア学習やグループ活動などを多く取り入れ工夫をしているが、学習内容も難しくなり、個人差が出てきている。そこで、苦手なところを繰り返し学習したり、休み時間を使って個別の指導にあたりしている。今後も、自分や友だちのよいところに気づき、さらに助け合い、学習や活動ができるように支援していく。

魅力ある学校づくりアンケート

学習においては、かけ算の九九を意欲的に取り組み何度も繰り返し暗唱することで、九九が言えるという自信を持つことができた。しかし、文章問題で式を間違えるなど、九九が言えてもかけ算の意味が理解できていない子どもも少なくない。アンケート結果にもあるように「主体的に取り組んでいる」児童が増えてきたので、かけ算の意味を理解できるような練習問題を増やし理解に努めていきたい。さらに、個人差については、休み時間に個別指導にあたるなど授業の内容理解に努めたい。九九については家庭と連携を図り、家庭で繰り返し学習をし

てもらおうように声かけを継続している。

これまで、友だちとの関わりについて問題があるとグループやクラスなどで話し合ってきた。また、道徳の時間には、友だちを思う気持ちや自分の行動などを振り返る学習をしてきた。そのため、暴力を受けたり、意地悪をされたり、または、暴力をしたり意地悪をしたりして、嫌な思いをしていた子が減ってきている。それは、友だちの気持ちを考えて行動したり、友だちの思いに気づいたりできる子が増えてきたからだと思う。

今後も常に友達の気持ちを考えて行動したり、友だちの思いに気づいたりできるような指導を繰り返していきたい。また、問題に対しては、迅速・適切に対応していきたい。

3年生 今後の手立て

学校生活アンケート

8.「クラスの友達に大切にされている。」で、3, 4（あまりあてはまらない、あてはまらない）と答えている児童が24%いる。学級活動で一緒に活動したり、や普段の生活での見守りをしたりすることが今以上に必要である。4.「自分の思いや考えを伝えたり友達の思いや考えをきいたりすることができる。」についても、3, 4（あまりあてはまらない、あてはまらない）と答えている児童が6月に比べ増加している。授業中、みんなに聞こえる声で話す、友だちの話を聞く、という態度が良くないと感じることが多いので、引き続き、「話す・聞く」についての指導に力を入れていきたい。

魅力ある学校づくりアンケート

エ「授業がよくわかる。」については、1, 2（あてはまる、まあまああてはまる）が増加していた。今後も教材研究を工夫し、わかりやすい授業づくりを目指していきたい。

6月の結果に引き続き、オ「たたかれたり、けられたり、強く押されたりした（暴力をうけた）」では、「あった」「よくあった」が、18%に対し、キ「たたいたり、けったり、イヤな思いをさせたりした」は、「あった」「よくあった」が、8%（前回は5%）という結果で、ちぐはぐなままである。少しではあるが、自分の行動についてふりかえることが出来るようになったのかもしれないが、まだまだであると感じた。子どもたち同士でトラブルがあったときは、丁寧に話を聞くようにし、対応していくようにしたい。

4年生 今後の手立て

学校生活アンケート

「誰でも仲良く遊んだり学習したりできる」「困っている人を見かけたら声がかけられる」「みんなが気持ちよく生活するために行動できる」子が多く、学級のまとまりが見られるようになってきた。しかしながら、自己肯定感の低い子も11%いる。朝の会や帰りの会、道徳の授業を充実させ、自分の良いところを認められるように、また友だちの良いところも認められるようしていく。

「困った時に相談する人がいない」と答えた子が9%いる。「先生がよいことや努力したことをほめてくれない」「いじめや悪いことをしたときにきちんと指導してくれない」「先生は、悩みや相談をよく聞いてくれない」と感じている子が少なからずいる。教師の方から積極的に話しかけ、話やすい・相談しやすい雰囲気をつくっていく。

魅力ある学校づくりアンケート

「学校が楽しい」「みんなで何かをするのが楽しい」と答えた子が、90%以上を占めている。しかしながら、学校生活に満足していない子、友だちから嫌な思いをさせられた子がいる。その子たちの気持ちに寄り添っていくために、毎日、表情に気を配ったり、きめ細かい声かけを行ったりしていく。また、学級活動の時間を利用して、児童が主体的に企画した行事を取り入れていく。

- ・主体的に授業に参加し、「授業がよくわかる」と答えた子が多い反面、「授業があまりわからない」と答えた子が17%いる。学年の教師間で教材を共有したり、教材研究をしたりして、楽しい授業・わかる授業ができるようにしていく。また、個別指導をしたり、グループ学習やペア学習を積極的に取り入れたりしていく。

5年生 今後の手立て

学校生活アンケート

問7「自分にはよいところがある」に対して約9割の児童が、肯定的な回答をしている。その理由として、大きな行事を乗り越えたことへの達成感が自信に繋がったことが考えられる。今後、卒業式や6年生送る会などの企画、準備を通して子どもたち自身が達成感を感じられるよう、主体的な活動になるような、言葉がけや見守りをしていきたい。問5「友達の思いや考えを聞くことができる」には、1あてはまるという回答をした児童が前期に比べて増えた。友達同士のかわわりが深まり、自分の居場所を見つけ交流ができていることも理由の一つだと考えられる。

しかし、問4「自分の思い伝えることができる」アンケート結果からは、人前で話すことへの自信のなさがうかがえる。引き続き、グループやペア学習を取り入れ、子どもたちが自信をもって発表できるような環境づくりに努めたい。また、問18「先生は悩みや相談をよく聞いてくれる」に1あてはまると回答した児童が減ったことは課題である。思春期を迎え、それぞれの悩みや不安が増えてくる頃だと考えられるので、定期的に聞き取りを行いたい。また、小さな変化を見逃さず、これまで以上に声かけや見守りをし、教師と児童との関係づくりを意識したい。

6年生 今後の手立て

学校生活アンケート

アンケート結果より、「2. 困っている人を見かけたら、声をかけるようにしている」と「5. 友達の思いや考えを聞くことができる」の項目で1と答えた割合が増えている。

このことから学校生活の中で、相手を思いやる意識を持ったり、それを行動に表したりすることができる児童が増えてきていることが分かる。

一方で、「1. 誰とでも仲良く遊んだり学習したりしようとしている」と「6. うまくいかないことがあっても、最後までがんばろうとしている」の項目で1と答えた割合が下がっている。

自分の行動や意欲に対して過少評価をする傾向にあることが考えられる。そのため、普段から真面目に取り組んでいることや努力していることに対して、積極的に認める機会を増やしていく。また、他の児童から認められる場を多く持てるようにしていく。